

「コリント教会へのパウロの手紙」のポイント

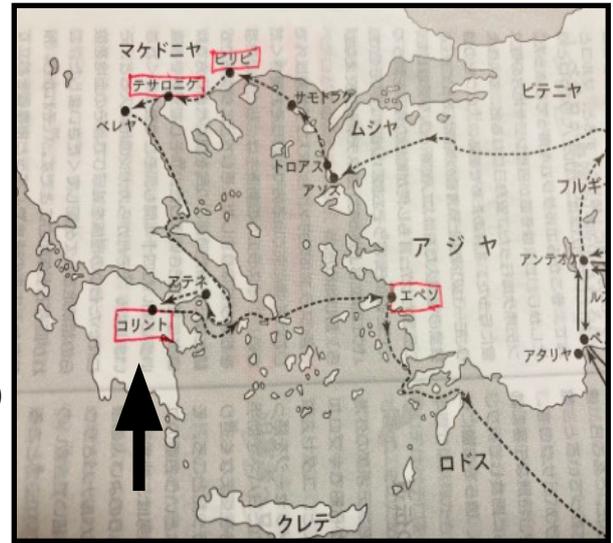
1 コリント教会への手紙のアウトライン

A：教会の問題についての対処

- (1)教会の分裂について(1章10節～4章21節)
- (2)教会の無秩序な状態について(5章1節～6章20節)

B：教会の質問に答える

- (1)クリスチャンの結婚に関する教え(7章1節～40節)
- (2)クリスチャンの自由に関する教え(8章1節～10章33節)
- (3)礼拝に関する教え(11章1節～14章40節)
- (4)復活に関する教え(15章1節～16章24節)



「コリント教会へのパウロの手紙」を読んでみよう

1 今日の聖書箇所：3章16節～23節

2 今日のポイント：聖なる主の宮を壊してはいけない

(1)前回までの復習

3章では、パウロはコリント教会のクリスチャンを「未成熟」と批判しました。それは、教会の中で「パウロ派だ」「アポロ派だ」「ペテロ派」だと指導者を中心にして分派する動きが見られたからです。故に、指導者よりも大切な事は創造主であり、その方を信仰の基礎に置くことを強調しました。10節では「キリストを土台に置く」という事を語り、信仰の成長にはまず「キリストを土台」にした信仰生活を送ることが大切だと語りました。

(2)私たちは創造主の住まい

パウロは、1章～4章にかけてコリント教会のクリスチャンに比較的厳しい言葉を語りかけています。16節にも出てくる「～知らないのか」という言葉には、コリント教会に自分達の言動について再考して欲しいというパウロの願いが込められています。

16節でパウロは、「あなたがたは創造主の住まい」だと語りました。当時、コリント教会では、指導者の好き嫌いで分裂が起こっていただけでなく、自分たちが賢い・正しい・正統だと言った強い自己主張がよく行われ、自分の信条に従わない人々をさげすむ人々がいました。さらには、クリスチャンとは言ってもおよこ言葉にできない程の不品行が行われていました。そのような行為に対してパウロは「あなた方は創造主の住まいであって、あなたがたの中には、創造主の聖霊が宿っておられる事を知らないのか」と語り、イエス様を信じ、すでに創造主の者とされたクリスチャン同士が、お互いをけなし合う事は、創造主の住まいを破壊するという重大な罪である事を指摘しました。また、不品行によって創造主が創られた相手を壊すことも大きな罪になる事を警告しています。

さらには、その創造主の住まいであるクリスチャンの共同体、教会を破壊する事も大きな罪であり創造主からの罰は免れない事を語りました。

教会は人の集まりですから、トラブルは避けられません。しかしながら、私たちが相手に対して何かをする際には、その動機が大切です。相手を思い、相手が創造主にさらに近づくことができるようにする事は愛の行為です。しかし、今回のコリント教会のように、自分の信条と合わないからと相手をけなす思いで、何かをするならば、創造主の住まいを破壊することになります。さらには、悪意を持って、教会共同体を攻撃する場合には、創造主からの報いがある事を覚えなければなりません。(教会は、人間の集まりですから間違いを犯す時もあります。その時には愛を持って指摘し、正しい方向へ進むように祈らなければなりません。それでも、正されない時には、愛を持って、外部機関へ相談する事も大切です)。

また、私たちの教会は「創造」を大切にしていますし、その真理を伝えています。しかし、時々、創造を信じていることができていない教会やクリスチャンを安易に非難する人々がいます。もし私たちが愛を持って創造を伝え、信じるように勧めたにも関わらずそれを否定し、軽視するのなら、批判されるべきかもしれませんが、創造について伝えていないにも関わらず、相手を簡単に批判してしまうのであれば、コリント教会の姿が私たちの中にあるのかもしれませんが。創造を信じていない！とすぐに批判するよりは、愛と忍耐を持って、しっかり相手に伝える言動の方が大切に見えます。

(4)創造主の住まいだから

パウロは、23節で「あなたがた自身もキリストのものであり、キリストは創造主のものである」と語り、私たちが創造主のものである事を再度強調しました。クリスチャンは創造主がお住まいになる主の宮ですので、聖さが求められます。「聖い」とは「分別された・分けられた」という意味がありますので、この社会に生きていながらも、また罪多き中に生きながらも、そこは一線を隠して生きる、区別された生き方をしなければなりません。

イエス様中心よりも指導者中心、創造主が創られた相手を高めるよりは自分を高めると言った世間一般でも良しとされない言動をしていたコリント教会の人々に、もう一度、クリスチャンの聖い生活について教えようとするパウロの姿がありました。

3 分かち合ってみましょう

牧師の学校でこんな事を聞きました。「教会の中で誰かを非難する動きがあった時に、愛を持って相手の事を思って指摘(非難)するのなら、創造主は相手を悔い改めへと導いて下さる。しかし、相手を打ちまかそうという動機不純で非難するのならその人が創造主から罰を受ける事になるだろう。創造主は全て心の中を見ておられる。心配する必要はない」。16～17節は、私たちクリスチャンにとって、とても怖い言葉かもしれません。しかしその分、自分も相手も創造主の宮である事、クリスチャンが集まる共同体は創造主の住まいである事を認識することの大切さを思わされます。

私たちが誰かの事を言いたくなる時、それが相手を生かす為の愛から出たものか、自分を守りたい自己愛から出たものか、動機をしっかりと見つめていきたいものです。

1 教会共同体と記念館の為に

(1) ビジョン達成のために

- ① 「創造をベースに、99%へ福音を」という教会のビジョンが、創造主によって祝福されますように。
- ② 2021年度ビジョン「創造主を信じ、その大能の力によって強くして頂きなさい」の実現の為に。
クリスチャン一人一人が、主に繋がり、主に強められるように。

(2) 教会のため

- ① 教会の本質的な働きー礼拝と伝道の働きの為
- ② 教会の共同体の関係祝福のために
- ③ 教会の霊的成長・成熟のために
- ④ 地域との関係

(3) ノアの箱船記念館のため

- ① ノアの箱船記念館が伝道のために、クリスチャンの信仰形成の為に用いられます様。
- ② ノアの箱船記念館の財政の祝福、ノアの歩道の為

(4) 教役者のために

- ① 堀越葉満主事のため ② 宮崎聖牧師家庭のため

2 教会員の為に

(1) 病にある方々の為に・平安があります様に

(2) 教会からしばらく離れている方の為

(3) 次世代の為に

- ① 日曜学校の祝福の為
- ② ユースの為に(ユースの学び・恋愛結婚・職場での祝福・海外にいる若者・他住の若者)

(4) 今月の祈禱課題の方々のために

3 伝道と宣教の為に

(1) 洗礼準備・聖書の学びをされている方々のため

(2) 受洗後の学びをされている

(3) 伴侶の救いの為

(4) 伝道のためのグループ(感染から守られる様に)

- ① レプトン ② ゴスペル・フラ ③ 卓レシア ④ 女性集会 ⑤ 創愛クラブ ⑥ クラフトカフェ
- ⑦ ノア・パーク

(5) ログス・ホープ号乗船